

## 人生に 「運とツキの法則」を 生かす



株式会社クレディセゾン  
代表取締役社長

林野 宏氏  
りんの ひろし

ビジネスマンの私がいいうのも変ですが、この世の中には「運とツキの法則」が万有引力のように存在すると思いません。この事実は、誰もが否定できないのではないのでしょうか。しかし、その原理はまだ誰も解明できていません。法則というからには、誰にでも当てはまることですから「成功」や「勝利」は、決して偶然ではありません。つまり法則が理解されれば、誰でも「運とツキ」を掴むことができるということです。生まれつきの才能に左右されず、チャンスは平等にあります。そして、人生は自分で創ることが出来る、と私は考えています。

昨年、困難に苦しむ国民を勇気付け、喝采を博した「なでしこジャパン」の決勝戦の奇跡こそが、究極の「運とツキ」つまり「努力」の継続力により得た能力だと、証明されました。

ビジネスの世界では、どうでしょうか。普通、成功するには自分の好きなこと、つまり夢中になれることを仕事にするか、与えられた仕事に夢中になるしかありません。

多くの人は、後者に属しています。即ち、仕事は夢中になれば成果が上がります。

誰からも賞賛され、給与も上がり、ポストも与えられます。上司からも部下、同僚からも一目を置かれ、お取引先や友人、知人にも評価され、良いことづくめであるのに、何故、人は夢中になる程、仕事に熱中しないのでしょうか。

私達は、スポーツでは自分の「好きなチーム」や「郷土の代表」の応援に夢中になることができます。何の報酬もないに、甲子園まで駆けつけ、応援する人もいます。報酬をもらってやる仕事に夢中にならないのは、不思議なことです。世界のあらゆる組織で、毎日夢中になる程に仕事をしている人はほんの僅かだと思われず。仕事が面白くない、上司が気に入らない、部下が無能だ等々、人間は、とかく自分が努力しない理由を見つけることに有能です。組織において、無限の可能性がある人の才能を活かさないことは、勿体ないことだと思います。

教育は、人がその持てる能力を最大限発揮する為のきっかけ作りだと思います。閉塞感に苛まれる日本の国民、とくに若い人に勇気と自信を取り戻して欲しいと思います。